ズアップ 自主防

地域防災コミュニティ(3)~ に遭っても普段の生活を目指して!

北区大杉学区 杉和自主防災会会長



会は85世帯、

12組の住民で結成しています。

他の新興地域に見られるよう

私たちの町内は、

線の北側、東区との区境に位置しています。

町内は名古屋市北区大杉学区にあり、

名鉄瀬戸

防災

主防災会として防災会を結成しました。

助け合う互助の精神が伝統的にあります。

そう

いった背景のもとに、

私たちの自主防災会が成り

害で被災した時は、

我がことのように考え、皆で

域の連帯意識が強く、これまで町内の住人が風水 古きよき人情の通い合う町です。そのおかげで地 は程遠く、昔から住んでいる人たちがほとんどで な、高層マンションやスーパーが混在する地域に

3

訓

した。そのようなことを踏まえて、 変化のある訓練をしたい」という要望が上がりま して訓練に対する情熱が薄れてくるので、 会員の中から、「いつも同じ訓練ではマンネリ化 練、炊き出し訓練を実施してきました。 自主防災訓練は、これまで毎年10月に初期消火 平成18年度訓練実施までの経緯 応急担架の作製訓練、三角巾の取り扱い訓 役員4名で北 (PLAN しかし、 少しは

1 はじめに

せていただきます。 の課題を解決できましたので、その方法を紹介さ の災害を想定した訓練を実践することにより、 の自主防災会では、 皆さんは、自主防災訓練のマンネリ化を防ぐた どのような工夫を凝らしていますか。 消防署や消防団の支援で実際 私たち

2 自主防災会の特徴について

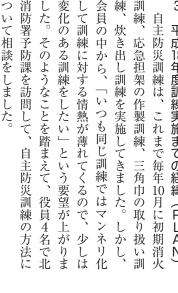
私たちの町内会は、平成8年9月1日に杉和自

訓練当日までの経緯

○訓練の方法については、 ○9月1日に北消防署を訪問して、 などのイメージが描けないため、署員の方に訓 舞台にした訓練を実施することになりました。 の手法を聞きました。その中で、 づくり大杉学区担当の予防課員から様々な訓練 経験が乏しく災害設定 町内会全域を 防災安心まち

> ○その後、何度も役員12名で検討し作成した訓 計画を基に、訓練に備えて自主防災会員の役割 練計画のたたき台を作成していただきました。 などを作成しました。 分担や、会員に説明するためのきめ細かな資料

○また、訓練の詳細については、 て担当予防課員と何度も協議を重ねました。 消防団長を通 じ



自主防災訓練実施内容 (DO)

平成18年10月1日 <u>目</u> 9 時~12時30分

○場

松浦手技療術院駐車場 (毎年貸していただいている

)参加者

消防署員4名 区各自治会長 杉和自主防災会60名、 (見学) 25名、 (計 122 名 大杉消防団18名、 杉和子供会15名、



訓練スグン	1	
時間	予 定	内容
8:45~	準備	○町内会災害対策本部(以下本部)席テントは前日に設営し、当日は机、
9:00		放送設備を配置
		○防災会役員及び担当者集合(準備分担確認)
9:00~	災害対策本部	・あらかじめ町内会の全員に「東海地震発生」を8時45分と申し合わせ、
9:30	活動	参加者は、バケツ、のこぎり、バール、車用ジャッキを自宅からそれぞ
		れ持ち、9時00分までに松浦手技療術院駐車場に集合
		・在籍状況確認、同時に参加者の把握、各組長による各組の在籍状況及び
		参加人員の報告(寝たきり、独り暮らしの人などを明確にした)
		注:この時、指導責任者を3名配置し、本部掲示板に町内会の地図を張り
		出して災害情報を書き込んだ。
9:30~	開催宣言	参加者全員が集合したところで、安達会長が「開催の宣言」
9:35~	第一次初期消	・大杉消防団員2名が南組方面へ被害状況調査に出発
9:55	火訓練	・本部、大杉消防団員からの無線により「どんぐり広場」で火災発生受信
		・安達会長、第一班(大脇班長以下5名)に「どんぐり広場」へ初期消火
		任務命令
		・第一班現場へ出発(ヘルメット着用、水消火器、バケツ持参) 現場到着
		後、初期消火実施。署員の確認後、大杉消防団員が無線で本部へ初期消
		火成功を報告、同時に負傷者1名発見と報告
		・本部、消火確認及び負傷者発生受信
9:55~	救助活動	・安達会長、第二班(梶田班長以下5名)に救助命令 第二班出発(ヘル
10:15		メット着用、毛布、竿、のこぎり、三角巾、バール、リヤカー持参)
		・現場到着後、頭部、手、足の応急手当実施、リヤカーに載せ本部へ搬送
		・第一班、第二班本部前で安達会長に任務完了を報告
10:15~	第二次初期消	・大杉消防団員2名が北組方面へ被害状況調査に出発
10:35	火訓練	・本部、大杉消防団員の無線により「千石宅」で火災発生受信
		・第三班(野田班長以下5名)に「千石宅」へ初期消火任務命令
		・第三班現場へ出発(ヘルメット着用、水消火器、バケツ持参)
		・現場到着後、初期消火実施。署員の確認後、大杉消防団員が無線で初期
		消火成功を本部へ報告、本部受信
		・本部へ帰班後、本部前で安達会長に任務完了を報告
10:35	炊き出し訓練	○松浦副会長以下8名(大杉レディスター)
10 . 55	開始	注:かまど用ブロック、鍋、釜、米、味噌汁の具などを当日までに準備した。
	[71] %LI	今回は「すいとん汁」。
10:35~	基本訓練	→ 回は「9000 ん行」。 ※場所:本部席前 ○参加者全員と子供会会員
	全个川水	- ※場所・平部席前 ○ ● の加有生員 ○ 丁供云云員 ・応急担架作製訓練(指導:大杉消防団)
11:20		
		・三角巾の取り扱い訓練(指導:大杉消防団)
11 . 00	アト・ル・アト パパニ 出ニイ	・消火器の取り扱い訓練(指導:大杉消防団)
11:20~	防火防災講話	・北消防署予防課員の防火替え歌による防火防災講話
11:35	10-884 10-yell	・本日の訓練の意義と総評
11:35~	講評	○大杉消防団長、大杉学区防災安心まちづくり委員長
11:50		○公職者などの挨拶
11:50	終了宣言	○安達会長がお礼を兼ねて挨拶と「終了宣言」
11:50~	炊き出しの試	参加者全員で、炊き出しのご飯と味噌汁(すいとん汁)を試食
	食	

訓練スタッフ:防災会役員、大杉消防団、子供会役員、老人会役員、写真班、消火班、避難救護班、 放送班 (ナレーションなど)、炊き出し班 (大杉レディスター) - 37 - 東海望楼平成 19年6月号● 2007 - 6

5 反省・展望(SEE)

毎年実施しているので、会場の設営などに支障 変おいしく参加者に好評でした。 を発揮してスムーズに準備でき、 素早くテントを準備したところ、 はありませんでした。途中雨が降ってきたので 毎年訓練している成果 手際の良さに

今回、本部を設置して張り出した町内会の地図 付ける訓練でした。そのため、いざ現場まで走っ いつもは消火器取り扱い・三角巾取り扱い ペース配分の必要性を痛感しました。 の搬送にも手間取ったりして、 てみると、思ったより息切れがしたり、 急担架作製の基本訓練を実施していますが、 町内の一部に被害を想定し、 活動における 現場に駆け



▲第一班初期消火訓練出動



▲救出活動「リヤカーによる負傷者搬送」



▲救出活動「応急担架による負傷者搬送」



▲第三班初期消火訓練出動



▲炊き出し訓練(大杉レディスター)



▲応急担架作製訓練(大杉消防団指導)



▲消火器取り扱い訓練(大杉消防団指導)



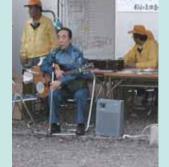
▲三角巾取り扱い訓練(大杉消防団指導)

消防団、 練の概要です。この訓練がとどこおりなく実施で 以上が平成18年度に実施した私たち防災会の訓 毎年自主防災訓練を実施している成果だと思 北消防署の協力、そして一番大切なこと 町内会全員の防災に対する理解と大杉

おわりに

るような体制作りを目指していきたいと考えて しても、町内会の人たちが「普段の生活」をでき これからも私たち防災会は、 災害に遭遇したと





防災本部

▲北消防署署員·防火防災指導風景